

需要期計画出荷によるキク産地のブランド力強化

要約

- ・県を代表する輪ギク産地である葛城市のJAならけん葛城花卉出荷組合を対象に、主力に「輪ギク」・「小ギク」、特色あるキクとして「二輪ギク」・「ミスギク」・「マイクロマム」を位置づけ、出荷組合が自ら販売戦略を検討し、計画的に出荷・販売できる体制の構築に取り組んだ。
- ・その結果、盆需要期において輪ギクでは目標を大きく上回る出荷量が確保でき、また、定期的な検討の場を設けることで、計画生産の重要性について、生産者の意識に変化が現れた。

現状(背景)と課題

- ・葛城市は県を代表する輪ギクの産地。
生産者数は、22名、栽培面積は、12ha。
- ・高齢化に伴い省力可能な小ギク栽培が増加。
平成30年の需要期の出荷数
輪ギク(黄)：5.2万本、小ギク：10.1万本。
- ・平成30年の特色あるキクの出荷数
二輪ギク：11.7万本、ミスギク：2.8万本、
マイクロマム：5.7万本
- ・安定出荷・販売体制の整備により、ブランド力の強化と産地の維持発展が必要

目標

需要期出荷量

- ・輪ギク(黄) 5.8万本
 - ・小ギク 14.0万本
- ### 特色あるキクの出荷量
- ・二輪ギク 15.5万本
 - ・ミスギク 5.5万本
 - ・マイクロマム 6.0万本

活動内容

【主力】輪ギク、小ギク

- ・お盆時期の黄色の輪ギク出荷量確保を目指す取組み。(作付調査、巡回指導、開花予測調査)
- ・お盆時期に安定して開花する小ギク系統の現地試作。(3系統)

【特色あるキク】

- ・市場調査。(出荷時期、量、品質(規格)等のニーズ調査)
- ・作付け状況の把握、巡回指導。
- ・マイクロマムの開花時期拡大に向け、摘心時期をずらす展示圃の設置と新系統の現地試作。

成果

【主力】輪ギク、小ギク

- ・お盆時期に黄色の輪ギクは目標を大きく上回る出荷量(8.4万本)を確保。
- ・小ギクは昨年より出荷量は増加したが(13.1万本)、目標は未達成。
小ギクは、県育成系統の現地適応性の調査を実施。1系統については、次年度も継続して実施予定。
- ・販売戦略の構築について検討会を4回開催し、生産者の意識を徐々に変えることが出来た。

【特色あるキク】

- ・生産者は手間のかからないマイクロマム栽培を選択。出荷量は、大幅に増加(12万本)。
二輪ギクの出荷量(12.5万本)、ミスギクの出荷量(4.7万本)は、目標より減少。

中部農林振興事務所農林普及課
担当：農産物ブランド推進係 山本・藤根
リーディング品目支援事業



現地巡回の開催



検討会の開催

普及活動のポイント

- ・生産者とともに栽培圃場の生育巡回・評価を実施し、市場への正確な情報提供に努めた。
- ・過去の販売出荷データを分析し、その結果をもとに検討する場を設けることに努めた。
- ・生産者自身が考え、意見交換を行う場を設けることに努めた。

対象の変化

- ・定期的に検討する場を設け、議論する機会を増やしたことで、徐々に計画生産・販売戦略の重要性について理解が進んだ。
- ・他産地にない特色あるキクの優位性を示せるという認識を共有することが出来た。

対象者からのコメント

- ・本活動を通じて、産地内での意識に変化があったことから、今後も活動を続けてほしい。

これからの活動ビジョン

- ・産地としての明確な生産・販売戦略の作成を支援。
- ・盆需要期の開花遅延を軽減するため、高温対策の検討。
- ・特色あるキクの出荷時期拡大のため、電照栽培の検討。
- ・新たな担い手確保のための参考となる経営モデルの作成。

活動体制

